

<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 11. 29 第56号

「造形教育をもりあげる会」のテーマについて

「造形って 楽しい！ おもしろい！ コチヨイ！」

このテーマは、造形教育をもりあげる会の活動テーマです。これまでのもりあげる会のテーマは、研究大会に向けての研究テーマでした。しかし、もりあげる会は、実質、会として研究を行っているわけではないので、研究テーマではなく、活動テーマとして考えました。したがって、研究の仮説や検証などはありません。

もりあげる会が活動としてめざしていく方向や大事にしていることが分かりやすいテーマとしました。

「造形教育をもりあげる会」は、造形活動の「楽しさ」や「おもしろさ」活動しているときの「心地よさ」を多くの人に伝えていくことをめざし、それを大事にしています。

月例会での研修会を通して、テーマの具体的な姿として示していきます。会報「UMU」やホームページを通して、実践の様子を紹介しながら広く伝えられるようにします。研究大会では、具体的な実践提案やワークショップ等を通して、参加した方々に伝え、それをより多くの人に広めていけるようにします。

○造形の楽しさって （造形活動はそもそも楽しいもの）

- ・自分で考えてものをつくらたり自分の思いを自由に表現したりできるから楽しい
- ・思いのままに表現でき、気持ちを発散・解放できるから楽しい
- ・自分でやってみて、いろいろわかるから楽しい

○造形の面白さって

- ・個々の発想や表現が尊重される（正解やうまい・へたはない！）
- ・既成概念や社会通念にとらわれることなく、自由に表現できる
- ・やればやるだけ新たな発見が次々見つかる

○造形活動の心地よさって

- ・自分の表現や製作の活動に集中しているとき
- ・自分の思いを実現させるために、あれこれ試行錯誤しているとき
- ・自分がやりたいことを自分で判断し、自分で決定しているとき
- ・自分の表現したものが認めてもらえているとき

このように造形活動は「いろいろな良さ」を持ち合わせています。これからの教育で求められるであろうことは、造形教育では「あたりまえ」と考えられています。

「造形教育をもりあげる会」としては、造形教育の考え方をもっともっと教育全般に広め、浸透させていくことにより、学校教育や学びの姿を変えていきたいという思いや願いをもって活動を進めていきたいと思えます。

そこで、次のようなスローガンを掲げることとしました。

「造形教育が学びを変える！ 学校を変える！」

11月「わくわく研修会」参加者の感想です

○今日もまた、楽しい研修会でした。ありがとうございました。

色とりどりの紙、ひも類、テープ類・・・ホッチキスでとめて、ひもで結んで、洗濯ばさみでとめて・・・
とても楽しくつくっていきました。音楽にのって体を動かし、紙吹雪まで舞って！素敵な時間でした。

○久々に造形遊びを体験し、はずかしさとワクワクが入り混じった不思議な感じでした。やらなければわからない感覚はとても大切なものだと思います。子どもたちに寄り添うことのきっかけを見つけれられたかなと思い、今後に生かしていきたいと思います。突然の参加だったのに、温かく迎えてくださり、ありがとうございました。

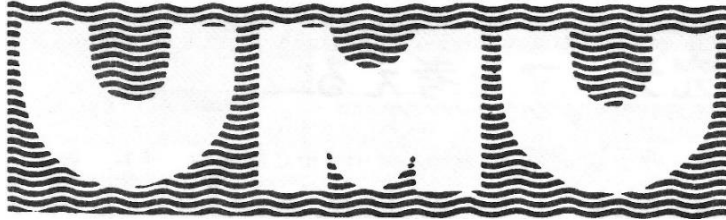
○とても楽しく参加させていただきました。会が始まる際に「大人は躊躇してしまいがちだけど、今日は思いっきり楽しむこと」との話があり、その通り夢中でつくり進め楽しむことができました。自分のイメージするものが表現できた嬉しさや、他の人の変身した姿を見た驚きなど、とてもわくわくするものでした。保育園の子どもたちにも、そんな経験を重ねられる活動を考えていきたいと思います。制作が始まる前の、周りの人と関わり合うゲームも自分を解放でき、活動の導入として、とても勉強になりました。

○今日の研修会では、様々な発想や考え方などの発見ができました。自分にはない発想を得ることができ、日々の保育でも取り入れたいと思いました。普段、何気なく捨ててしまう紙袋や梱包材、一度使ったスズランテープなどの素材で大人でも楽しめることに驚きました。また、これをどうしたらスカートにできるか、どの素材と組み合わせたらいいかと考える時間がとても新鮮でおもしろかったです。

○たくさん素材を使って自由につくる。身にまとう。リズムに合わせて体を揺らす・・・。普段と違う非日常を体験することができました。つくりだすと時間があっという間に過ぎ、時間が足りないくらいでした。子どもたちとも楽しみたいと思います。

○体を動かし、人と触れ合い、同じ空間でハートをつなげるワークショップでした。子どもたちの笑顔思い浮かべながら活動してみました。未来の大人である子どもたちのために、今の大人たちが変わることがとても大切なのだと改めて考えさせられました。





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 12. 01 第57号

早稲田大学の大泉先生からご著書を紹介していただきましたので、みなさんにお知らせします。

【新刊ご案内】

『毎日の授業研究・保育研究(レッスンスターディ):幼児造形・図工・美術編』

大泉義一 編著

いつもお世話になっております。早大の大泉です。

この度、『毎日の授業研究・保育研究(レッスンスターディ):幼児造形・図工・美術編』が刊行されました。

この本は、「授業づくり」に関する書籍は多数ある中で、「授業研究(by 実践家)」を扱った先例のない内容のものです。

教育現場の先生方やこれから教職を目指す学生たちが、「よりよい授業」を目指して「日々の授業実践」において取り組む「授業研究(レッスンスターディ)」のあり方について、その考え方と実例を紹介しています。

実践編では、知見と経験豊かな執筆者の多くの方々にご執筆いただいております。(もりあげの会のメンバーにも参画していただいております。)

読みやすく、どのページからでも読むことのできる体裁となっておりますし、お値段も控え目...となっておりますので、ぜひお手に取っていただき、一緒に「授業研究」について考え合ってください。

また、お知り合いの方や関わっていらっしゃる研究会等でご紹介いただけましたらありがたく存じます。その際には、チラシデータもお使いください。

お読みになってのご感想やご意見も、頂戴できれば幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

※ 紹介した本の内容の項目(もくじ)は、別紙資料として添付しましたので、参照してください。

毎日のレッスンスターディ
授業研究・保育研究
幼児造形・図工・美術編 大泉義一 編著

A5判・128頁 定価1,980円(本体1,800円+税)

毎日の授業で手軽に! すくに! ながらでも!

授業研究や保育研究って、ちょっと難しそうだし、忙しいなかでするのは面倒で大変そう…。でも、大泉だし、やってみたら面白そう!

そんな、日々の授業をよりよくしようと考えている教育現場の先生方、そして将来「よい授業・保育」をしたいと思っ学生のみなさんに向けて。

- 現場の教師に日々求められる「毎日の授業研究・保育研究」の取り組み、その意味と実践について考える一冊。
- 実践編で、「毎日の授業研究・保育研究」に取り組む意味とその考え方について語り下す。実践編では「毎日の授業研究・保育研究」を日々の授業・保育でどのように実践するのか、具体的な事例からそのノウハウを紹介する。

主な目次
目次編：なぜ「毎日の授業研究・保育研究」なの? 究められている授業研究、毎日の授業研究の歴史、授業研究実践誌
実践編：「毎日の授業研究」からこれ 授業実践から、実践例・制作例・作業から、教材から、アンケートから、対話から

書名	毎日の授業研究・保育研究	著者	大泉義一	発行所	建帛社
ISBN	978-4-7679-7054-7	ISBN	978-4-7679-7054-7	ISBN	978-4-7679-7054-7
定価	1,980円(本体1,800円+税)	ISBN	978-4-7679-7054-7	ISBN	978-4-7679-7054-7

〒112-0011 東京都文京区千石4-2-15
TEL: 03-3944-2611 FAX: 03-3946-4377
<https://www.kengokusha.co.jp/>

12月の「わくわく研修会」のお知らせ

12月16日(土)15:30～ 場所：ほどがや地区センター(相鉄線天王町駅下車 徒歩10分)

「紙を切って、折って、曲げて…」

1枚の紙をハサミで好きなように切っていく、折り曲げたり、丸めたりしながらおもしろい形を探っていきます。できた形に自分のオリジナルの名前をつけます。思いもよらぬ楽しさに出会えますよ。

「アートを見るのはハードルが高い？」

アートは、高尚だとか、高価だとか、難解だとかいろいろ言われ、結果、「三連休どこ行くの?」「美術館」って答えると、「へえ、アートなんてハードルが高いなあ」なんて、言われ方しますが、そんなことないですよ。

買うと高いけど、無料で観れるパブリックアートもいまや、街中に溢れているし、電信柱から連なる電線をスマホでパシャって撮ったらアートな作品が撮れるかもしれない。

いろいろありますが、僕は距離的なハードルの高い美術館に行くのは大好きです。

やっと辿りついた！えっこんなところにこんな素敵な空間が！みたいなおどろきがたまりません。具体的には、千葉にある川村記念美術館が大好きです。

横浜駅から1時間半ほど電車で揺られ、物井駅からバスで30分ほど揺られ、西福寺から10分ほどリュックを揺らしながら歩くと辿り着きます。そこには、白鳥が優雅に泳ぐ湖が広がり、そのほとりに美術館があります。「うわ！」と思いました。



兵庫県のナギ美術館とか、香川県丸亀市にあるイサムノグチさんのアトリエに行った時にも、道中のんびり長い時間をかけて辿り着いた時には、「うわ！」でした。

十和田湖に現代美術館ができた時も、早々に喜び勇んで行きました。きっと十和田湖のほとりを散歩してるうちに「うわっ！あれだ！」ってなるのかと思いきや、全くの街中で渋滞する車の向こう側に現れた時は、ちょっと寂しい気持ちになったのを覚えています。

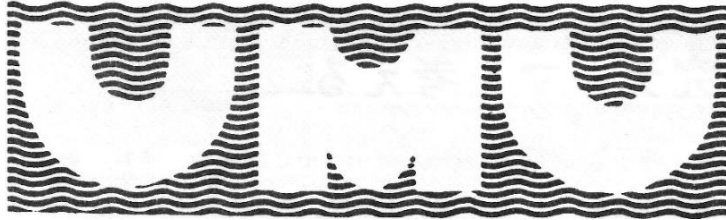
で、美術館ではないのですが、大分県の国東半島という大自然の中の山を登ると頂上には、アントニーゴームリーというアーティストが作った彫刻作品が建っているそうです。600kgの鉄の作品。ものすごい苦勞と、たくさんの人々の助けを経て、やっと設置されたこの作品は、作者の故郷イギリスを眺めているそうです。



大分県に行くだけでも遠いのに、ヒーヒー言いながら、山を登り、この作品を観た時、この上ない「うわっ！」を体験できるはず。

近いうちに行きたいと思います。

松浦 雅昭



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 12. 14 第58号

鶴見大学附属三松幼稚園の作品展を参観して

12月9日(土)に鶴見大学附属三松幼稚園の作品展があり、もりあげる会からも数名参観させていただきました。

子どもたちの日常の活動の様子が表れている素の表現がとても素敵でした。なにより、展示されている子どもたちの作品や活動している子どもたちの写真などから、園での遊びや生活の楽しい様子がたくさん伝わってきて、温かい気持ちになることができました。



「子どもたちのあそびつくる世界展」

三松幼稚園では、「一人ひとりの子どもの小さな発見や挑戦を大事にする保育」をめざしています。そして、そうした子どもたちの姿を紹介するのが、この催しです。

大人からすると、子どもは無知で未熟で知識を教え込まなければただの白紙・空の容器だと考えられがちですが、近年の研究からも明らかのように、子どもは母親のお腹の中にいるところから自ら学習する存在であり、生まれてから幼年期にかけての時期は驚くほどの好奇心や意欲に満ちています。身の回りの物事を面白がり、繰り返し遊びながら探求し、想像力を働かせて新たなものを創り出すその姿の、なんと豊かで魅力的なことでしょう。

園で過ごす子どもたちは、自分の小さな発見や挑戦を先生や友達に認めてもらうことで安心し、より積極的に自己発揮します。面白そうなことをしている友だちがいれば近づき、一緒になって遊ぶことで互いの思いや考えを知ったり刺激を受けて新たな挑戦を企てたりしながら、物事の仕組みやつながりを学習していきます。そして、こうした活動を行う上で大事なのが、個々の自由意志によって繰り広げられる日々の具体的な体験であり、目の前の〈もの〉を扱い創意工夫することです。

子どもたちと砂や土や水との間にどんなことが起きて、どんなふうに新たな世界が広がったか？折り紙をハサミで切ることからどんな遊びが展開していったか？電車が好きな子たちによって展開された遊びは？おしゃれ好きの女の子たちの生み出した素敵なコレクションは？あっちの遊びとこっちの遊びがくっついて…？

これらは主に遊びの中で行われますから作品として形に残らない場合も多いですが、今回の展示では、写真を用いたり痕跡を見てもらったりなどして、彼らの営みぶりを紹介します。

大人は、展覧会なんて聞くと立派な作品らしいものを求めがちですが、私たちは無理に作品化を望むことよりも、ありのままの子どもたちの日々の遊びや創作の過程をお伝えすることの方が大切であると考えています。

三松幼稚園園長 鮫島良一先生の 作品展案内文より

三松幼稚園の子どもたちの作品から、素朴で自由に造形あそびを楽しむ姿が浮かんできました。遊びの中でパッと作ったものや、思いを込めてじっくり作ったもの。友だちと一緒に遊びたくて、自分なりに一生懸命作ったものなどいろいろありました。それを先生方が、楽しさが伝わるように飾り方を工夫されていました。正に「子どもたちの遊びつくる世界展」という名にピッタリでした。ありがとうございました。

松本有加



とても温かみのある造形展だなと感じました。木やどんぐり、落ち葉などを使った自然を感じる作品も多く、レイアウトもとても素敵でした。

また、日常の1部を切り取った作品がとても多く子どもの普段の遊びの様子が思い浮かび、自由保育の中でも充実した環境設定がされているのではないかと感じました。

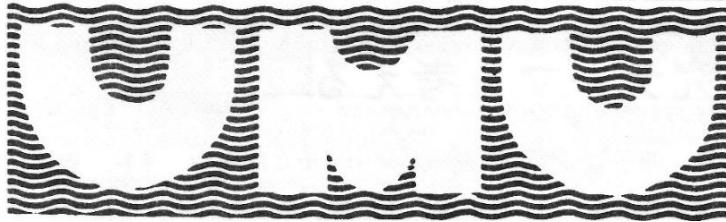
自由な作品が多く見ていて楽しかったです。造形は保育者が教え、やらせて形をつくるものではなく、子どもの作った日常の些細なひとつひとつが作品であるという事を改めて感じる事が出来ました。とても素敵な造形展で作品の飾り方等とても勉強になりました。ありがとうございました。

松本宜子

「子どもたちの遊びをつくる世界展」のご案内を頂戴して、心ウキウキしながら三松幼稚園に行ってきました。

12月9日(土)を年間カリキュラムに組み入れるのに、こんなに暖かく夏日と思われる陽気をどなたが想像したのでしょうか？心地よくゆっくりと鑑賞させて頂きました。玄関に入り、お釈迦様のご降誕のジャンボアートに迎えられ吸い込まれるように、年少組の展示会場に入室しました。どこの現場にもいるであろう子どもたちの姿を想像しながら、一人一人の気持ちに寄り添い、全ての作品をこんなにも丁寧に扱い認めてあげている。子どもたちが笑顔で丸めたり・引っぱったり・くっつけたり・ひねったりの作品が、先生たちの魔法にかかり展示している。展示した自分の作品を見て得意になって保護者に説明したり自慢したりする姿が目につきます。さらに「今度はこうしてみたい…こうしたらどうだろう…」とても大切なことであり、これまでのことは始まりであることを鮫島園長・柳谷副園長両先生をはじめ全教職員が捉えて入園から卒園迄の3年間かけて育てようとしている思いが伝わってきました。子どもたちの好奇心・意欲から発達していく事が大切で、素晴らしい幼児教育に結びつく全てである！と確信できました。年中組の部屋に入ると1年の経験からかなりの成長を見ることができ、年長組はさらに大きく成長していく過程をじっくりと拝見させて頂きました。又、お忙しい中お時間を作って頂きましてありがとうございました。

増田ツヤ子



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 12. 18 第59号

三松幼稚園の作品展を参観しての感想の続きです。

土曜日の午前中は、保護者と子どもたちが参観している時間でした。嶋田先生は、その時間に参観されたので、子どもたちや保護者の方々の声を聞きながら子どもたちの活動や表現の様子を見てくることができましたようです。

紛れ込んで見えました

「三松幼稚園」の作品展に行ってお母さんたちの中に紛れ込んで見えました。園の中に入ると子供たちの遊びの痕跡が至る所にあつてなるほどと思いました。

実は近所の作品展を最近見たばかりでした。大きな動物を段ボールで作り、色塗りがきれいに。作品が美しく展示されているのですが、どうも物足りません。なにかこどもの生きている息遣いが無いのです。段ボールのキリンが立派に立っていてもそれと遊んだ形跡が一つも無いのです。

その点この園では、はっきりその子供たちの活動の中で創意工夫をだす過程を大切にしていると宣言していました。

立派ではなくても子供たちが考え工夫する過程を大切にする園の姿勢です。

そんな中で一つ挙げると、「交番あそび」でおまわりさんの帽子を作ったところから、他の子もかぶりたいと、作った帽子はそれぞれ個性のあふれた帽子で、かぶって遊んで、壊れても直してかぶり、傷ついて少し形が崩れてもかぶった跡が見られました。工夫して発展させてドロボーが入ったら困る、ということで交番なのにドロボー入るのかな?と思いながらも、防犯カメラを設置していました。それに交番の中にたくさんカメラを作っていたのが面白かったです。

粘土づくりが各学年やっていて目立ちました。紙粘土、テラコッタ、焼き物。

3歳児のお母さんが子どものねん土を見て「上手ね」という声があがり…..ウン?

上手という言葉はなるべくいわないのでは?とっていると、すぐ先生が飛んできて子どもの作った様子を親に話していました。親は子に対して上手!!と声を掛けたいのに違いありません。初めて見る我が子の粘土のかたまりです。でも「上手」より子どもがどんなふうに粘土にさわったのか、かかわったのか見てほしいのは先生です。

さらに園では各部屋に飼育ケースもたくさんありました。魚や大きな亀2匹もいて印象的でした。「何をかっているの?教えて?」と、そこにいる3歳児に声をかけたら「かなへびだよ」と教えてもらいました。でも教えてくれたけれど姿が見えません。わたしが見えるまで、いろいろさがしてふたの後ろに隠れているのを見つけました。これが「かなへび?」手足がありました。

写真をうまく使って活動の説明をしていたのもわかりやすかったです。園全体のたくさんの子供たちの日頃の楽しさが伝わってきました。子どもの「楽しく遊んだ足跡」満載でした。

嶋田 富美子

12月の月例会の報告

12月16日(土) ほどがや地区センターにて 参加者数：10名

<運営会議>

3月までの月例会及び研修会の予定が決まりました

1月 20日(土) 白梅いずみ保育園 9:00~12:00 (研修会は10:00~)

2月 17日(土) ゆめの樹保育園 9:00~12:00 (研修会は10:00~)

3月 9日(土) 鎌倉女子大学幼稚部 9:00~12:00 (研修会は10:00~)

※来年の研究大会での発表者を募っています。

実践発表をしてみたい方は、事務局までご連絡ください。(moriage123@gmail.com)

※活動テーマ「造形活動って 楽しい! おもしろい! ココチヨイ!

活動スローガン「造形教育が学びを変える! 教育を変える!」

テーマとスローガンについて、とても濃い話し合いができました。アンダーラインの部分は、今回修正したところです。「ココチヨイ」のカタカナ表記についても、様々な意見が…。(なぜカタカナ?)

<研修会>

「紙を切って、折って、丸めて・・・」

1枚の白い画用紙をハサミで好きなように切って、折ったり丸めたりしていくと、何とも不思議な形が生まれてきます。大人は何かしらいろいろ考えながら、こうやって切ったらどうだろう? 切り方を色々変えて工夫してみよう、などと、ついつい見た目を気にしながら活動してしまいがちですが、小さな子どもたちは自由気ままに、思いのままに切ったり折ったり丸めたりしていきましょう。その方が、おもしろい形や何とも不思議な形が生まれてくるのかもしれません。

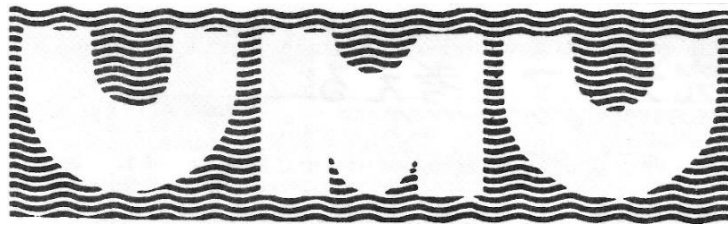
BGMで軽快な曲が流れる中、自然とハサミも軽やかに動いていきます。あまり考えないようにどんどん切り進めていき、折ったり丸めたりしていくと、それぞれみんな面白い形が生まれてきました。吊るすように持ち上げてみたり、ホッチキスで止めて立体的にしてみたり。

さあそれでは、いよいよ自分が表現したものにネーミングです。自由に切って、思いのままに折ったり丸めたりしてできてきた形なので、ネーミングも全くに自由。

1枚の画用紙と一つのハサミからこんなに可能性の広がる表現活動。幼稚園や保育園のみならず、小学校や中学校でも造形活動として子どもたちの楽しい表現に結び付けられる可能性に溢れた活動でした。

そして、なによりも今回も楽しく体験できる研修でした。





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 12. 20 第60号

横浜国立大学教育学部附属横浜小学校 教育研究集会

「会報第55号」で紹介した附属横浜小学校の研究集会に参加した山口理絵先生からその報告と感想をいただきましたので紹介します。

図画工作科の授業は1日目の公開だったので、2日目に参加のため、図画工作科の授業は見られなかったようですが、附属小学校が各教科、領域の学びにとどまらず、全ての教育活動の中でテーマである「未来を拓く子」を育てていくため、生活総合や総合单元にも力を入れているので、その学びを紹介して下さっています。

4年1組大高伸弘先生

総合単元学習 情熱劇団 watari 座 ～第二回公演「ぼくとロボ」に向けて～

「表現」という言葉に含まれた造形、身体、言葉全てが組み込まれた学習と感じました。

五感を働かせて、相手の呼吸や間を感じあいながら、役になりきり自分たちの伝えたい思いをオペレッタを通して観る人たちに伝える姿がとても生き生きとしていました。

途中、観る人と演じる人が入れ替わりながら、お互い指摘し改善を繰り返し進めていました。

演じる事が苦手な子もライトや音響、台本や大道具など、自分の得意分野がいかせる活動であり、誰が主役ではなく、どの子も必要な存在である事を感じ個の育ちが集団の育ちに繋がる活動だと感じました。

2年1組 麻生達也先生 生活総合 そらへ！ぐんとこチャレンジ

1年2組 野口由佳先生 生活総合 けんきゅうじかん～ハテナ！あきらめない！じぶんで！～

どちらも個がこだわって課題をもち一年かけて追究する様子のひとコマでした。

一年生のテーマの例としては、巣箱作りやしましまアイス、カルタ作りなど行っていました。

開始前に、「研究には、終わりがいいのか？ないのか？」という問いがありました。

「(自分の追究を) 達成したら終わる」と言う子もいれば、「ずっと続く。一年生が終わっても家でも出来るから」

カルタ作りは、何が楽しくて続くのか？「作ること、描くこと、取ること、全てが楽しいからずっと続く」など、子どもたちのそれぞれの思いがとても興味深く感じました。

2年生でも同じように個の追究でした。われないシャボン玉作りや人が乗れる船作り、遠くまで飛ぶ紙竹とんぼ作りなどでした。

開始前に「われないシャボン玉について」当事者以外の児童からアドバイスがありました。

色付けヤストローの切り口についてでした。

その後、われないシャボン玉作りを行っていた子は、洗剤やガムシロップ、洗濯糊、オロナミンCなど様々な材料があり、分量を計りながらシャボン玉を作り、アドバイスの中から試みる様子がありました。

どちらの学年も個で取り組みをシェアして、集団の育ちとなるような提案が担任の先生からありました。お互いの事にも興味を深め、それぞれの課題に向かう姿があり、個の育ちは間違いなく集団の底上げになると感じました。

全体的な感想として、たった一部を見ただけですが、一年かけてそれぞれ追究するものに取り組むまでの過程もとても大切ようにしてきた様子がよくわかりました。また、追究も達成や成功を目指しているのではなく、もっと深く目に見えない感じる心の育ちを大切に感じました。

低学年の個の取り組みであっても、先生とクラス子どもたちで試行錯誤して作られてきたように感じました。

また、どの学年も子どもたちが生き生きとした表情で取り組む様子が多く見られました。その反面、低学年では、追究に低迷している子や援助要請に遠慮がある様子も見受けられ、一クラスの人数の多さも感じました。

「追究に終わりがあるのか」の問いは心に残りました。
一番は、全ての子どもたちにとって、学校が楽しく、毎日行きたい場所であって欲しいと感じました。

山口 理絵

1月の研修会案内(予告) ～研修会の垣根をぐ～んと低くしたい～

1月20日(土)10:00～ 会場：白梅いずみ保育園

1月の研修会は、幼稚園・保育園では常日頃から馴染みのあるクレヨンを扱った表現活動について考えていきたいと思っています。

小学校でも、低学年ではクレヨンによる表現活動を行っています。今回は、子どもたちがクレヨンでのびのびと表現する活動を体験しながら、その楽しさやおもしろさ、ココチヨサをみんなで考えていきたいと思っています。活動テーマを具現化していく研修会です。

小学校は、幼稚園、保育園と違い、毎日の日常生活の中に造形活動を取り入れていくことは難しいです。学校生活では、各教科の時間数が決まっています、図画工作科の時間としては、低学年では週2時間。毎日時間割で制約されています。日常的に造形活動を行う時間的ゆとりは厳しいですね。

というわけで、小学校では時間的制約の中で、子どもたちがいかに楽しく活動し、自分たちで学びを創り上げていけるかを工夫しながら活動を考え進めています。そこで、小学校の活動例を紹介しながら、実際にみんなで体験して、いろいろ気づき、感じたことを語り合っていきたいと思います。

幼稚園、保育園の先生方から見た小学校の活動への感想やご意見楽しみです。小学校の活動がさらに楽しく、子ども主体の学びになるヒントがたくさんもらえることを期待しちゃいます。

会場が保育園ですから、保育園、幼稚園の先生方はたくさん来てもらえると思いますが、是非今回は特に小学校の先生方にも参加してもらいたいと願っています。

さて、研修会の垣根を低くしたい、ということに関してです。

11月の研修会の時でした。研修会が始まる直前に、事前に全く連絡をもらっていなかった、元川崎市の校長先生でもりあげる会のアドバイザーでもある加藤先生が、ひょいっと顔を出してくれたのです。驚くと同時にとっても嬉しかったです。そして、その後の研修会に参加して、一緒に活動を思いっきり楽しんでいてくれました。

これです。この研修会は、参加申し込みを受け付けてはいますが、ちょっと行ってみようかな、覗いてみようかな、で気軽に来てもらって大歓迎です。幼稚園の嶋田園長さんが「もりあげる会はひらがなで語り合うからいんだよね」とおっしゃっていました。難しい言葉ではなく、分かりやすい言葉で気楽に語り合しましょう。「体験活動はちょっと…」という方は、見ているだけでもかまいません。造形教育は一切強制しません。構えず気楽な気持ちで参加して欲しいなという気持ちでいっぱいです。垣根は低いですよ～。